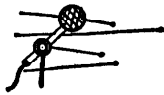


講演



第27回全国大会にあたって

—会長あいさつ—

坂井 利之†

お早うございます。今回は当地名古屋大学において第27回情報処理学会全国大会を開催できる運びになりましたことは、大会運営委員会の各位、現地の実行委員会の方々ならびに関係者各位の並ならぬご努力によるもので、厚くお礼申し上げます。

この機会に情報処理学会ならびに学会をとりまく状況についてご報告申し上げたいと存じます。

情報処理学会の大会はご承知の通り、昭和55年より年2回開催されることになりました。

今回の大会では、特別講演1、招待講演1、パネル討論2件で、一般講演は802件に達し、年間にしますと1600件を超える多い発表件数となります。

きょうは、学会の各種データを10年前と比較して、その発展を見たいと思います。

まず大会の発表件数は10年前は255件でありましたから、学会の成長がよくわかります。

会員の人数につきましては、現在約19000名でありますから10年前の2.7倍、研究会の数は4研究会であったのが、現在は15研究会となっています。学会の機関誌は10年前は学会会誌1つでしたが、現在は会誌・論文誌・欧文誌と3つになっていて、頁数も10年前の994頁が現在は2400頁と約2.4倍となっています。

学会の支部につきましては、現在5支部〔関西、東北、九州、中部（東海）、北海道〕と充実致しましたのは、単に会員数の増加に伴うだけでなく、前会長の猪瀬博先生をはじめ皆様方の努力に負う所が多いと存じます。

学会の各種活動については、役員・理事、関係研究会、機関誌関係各位はもちろん会員のご協力が必要な

わけですが、本年からは、よりソフトな会員と役員との直接の交流を意図して、総会での講演の替りにパーティとしております。次回からもより多くの会員各位の声を直接に伺いたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

次に学会関連では、IFIP '83が本年9月19~23日パリで開催されまして、第5世代コンピュータも含め、日本人のInvited Paper 5件を含め一般講演は16件となっております。

またICTP '83（字種の多い言語の文書処理に関する国際会議）が、10月17~19日本大会と同時進行で東京で開催されています。

学会をとりまく状況と致しましては、「日本ソフトウェア科学会」の発足の準備が進んでいるように聞いております。当学会と深い関係があり、ソフトウェアの基礎面に重点をおき、学校関係の方々が多いと考えられます*。

また情報通信学会が世界コミュニケーション年の本年に発足し、許可も近い**と聞いておりますが、社会、法律、工学、国際、政策などニューメディア時代に生ずる諸々の問題について、学際的な研究を強力にすすめるようになっていると伺っています。

このように当情報処理学会がかかわる範囲は益々広く、さらにその内容は深くなって参りまして、在来の縦割りの諸々の壁を破って新しい対応をせまられる時代の大転換期に直面していることをひしひしと感ずる次第です。本日はこれから特別講演として電電公社の北原副総裁のお話を拜聴することになっておりますので、ご静聴いただきたいと思ひます。有難うございました。

† 本学会会長 第27回全国大会の会長挨拶として行われたものである。

昭和58年10月18日 於名古屋大学工学部

* 58年10月発足し、12月3日設立記念講演会が行われた。

** 58年10月12日財団法人として文部大臣より許可された。

